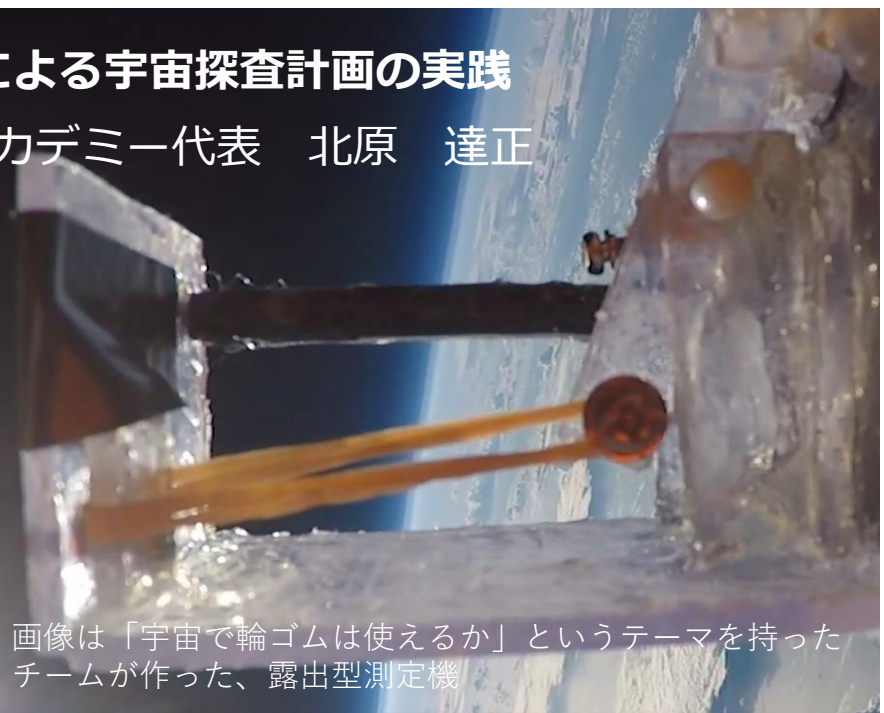


# 宇宙探査プロジェクトによる、ICT/データサイエンス人材の早期育成

いつでもどこでもだれでもICT/データサイエンスが学べる社会の構築

## 小・中学生による宇宙探査計画の実践

e-kagakuアカデミー代表 北原 達正



画像は「宇宙で輪ゴムは使えるか」というテーマを持ったチームが作った、露出型測定機

## Space Balloon Project 参加者の課題

- ・年齢制限なし。予備コンテストでスキルを証明したものがチャレンジできる。チャレンジした23名中16名(70%)が小・中学生。
- ・百貨とホームセンターにあるもので成層圏観測機を作り、各データを測定する
- ・上空3万メートル、0.01気圧、-80℃で正常に作動し、海上着水に対応できる完全防水などを実現
- ・2019年10月5日宮古島より打ち上げ成功
- ・4つの観測ユニットと6台のカメラのすべてがデータ収集に成功
- ・MATLAB®により、画像解析・数値解析を行った。
- ・MATLAB EXPO2020にて5つのLTとポスターを発表 (中学生発表は日本初)

SDGsなどリアリティのある課題による社会が求めるAI/データサイエンス人材創出

現在取り組んでいるプロジェクト例

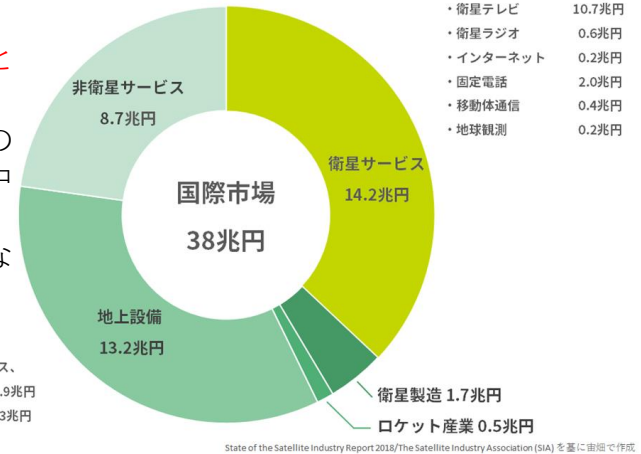
### ・小・中・高校生によるISSからの衛星放出とデータ解析

右に示すように、これからの巨大マーケットの一つである宇宙産業は、データサイエンスを中心としたICT産業である。いち早く本物の課題を実際に経験し、リアルな対応力を持たせるすべての世代が共通のリテラシーを持つ



2024年打ち上げ予定

協力(予定)  
三井物産、  
三井エアロスペース、  
JAXA



## すべての世代が AIとICTを学べる



・医大、地方病院、医学部コースを持つ受験校による遠隔画像診断

・琵琶湖の200の河川の水流を衛星で追跡

・沖縄海溝 (深度7000メートル)での海底探査

・ローバーとドローンの0メートルリターン

小学生から社会人までが同じ課題に同じ時間とデバイスで挑む